

クローズアップ
CLOSE UP

勝利への声援を届ける

ザスパクサツ群馬と連携し、「前橋市ふるさと納税サックスマッチ」を4月15日に開催。寄付金を使った特別支援学校の児童などの無料招待や市内全小学生への招待券配布で、当日は多くの人々が来場。声援を受けたザスパが、2対1で藤枝MYFCに勝利しました。

郷土の画家の魅力知る

アーツ前橋で5月29日(火)まで開催中の企画展「横堀角次郎と仲間たち」に合わせ、4月15日に講演会「横堀角次郎の魅力」を開催。元県立近代美術館学芸員の染谷滋さんが講師となり、展覧会の見どころや横堀の画業の魅力などについて語りました。



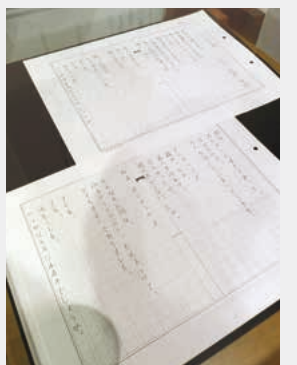
ワカモノ記者動き出す

4月14日、広報まえばし市民編集員・第二期ワカモノ記者が集まり、研修会を行いました。互いに初対面で緊張しながらも、写真撮影ではみんなポーズを考えるなど和やかなムードに。記者たちが登場する初めての記事は、本紙6月15日号に掲載予定です。

萩原朔美
河畔奇譚

THE BLUE CAT
猫青案

vol.7
園前橋文学館
☎ 027-235-8011



受賞作『とんぼと羽』原稿

トランポリンは生涯スポーツ

市トランポリン協会普及指導員
原澤千弘さん・54歳
元総社町



原澤さんはトランポリン指導を始めて9年目を迎える。普段の生活にはない動きを体験できるトランポリン。その魅力を知り、もっと多くの人に広めたいと思うようになったのがきっかけで、指導者になった。

教室には2歳から70代までの幅広い年齢の生徒が通う。子どもが始めたことをきっかけに一緒に習う親も多い。跳んでみたいと思ったときにいつでも始められるのも魅力だそう。

「運動が苦手という人でもトランポリンは楽しいって言ってくれますね。初心者でも楽しめる、こんなに垣根の低いスポーツも珍しいと思います。まさに生涯スポーツです」

生徒たちは楽しむ中でそれぞれ目標を見つけていく。それを応援することが自身の役目だと原澤さんは言う。

「まずは楽しんでもらうことが何よりも大事。そこから大会でいい成績を出したいとか、ダイエットしたいとか、自発的に目標を見つけていきます。生徒が目標を達成できたことなどを話してくれると私もうれしくなります」

生徒の話をするときにとびきりの笑顔になる原澤さん。これからも愛ある指導でトランポリンファンを増やしていくだろう。

●前橋での幼少期から松本清張賞受賞まで

萩原（以下H）念願の、地元出身の作家を紹介します。阿部さんは中2の時、『とんぼと羽』という詩で若い芽のポエム金賞（美棹賞）を受賞されました。とてもきれいに死を描いている。すごいですね。それにリズムや音を意識している。朔太郎にも通じますね。

阿部（以下A）私は前橋で生まれ育った、空想好きな子どもでした。周囲の大人たちはそんな私を、うそつきではなく想像力豊かな子として見てくれた。

小学校に入り、空想を文字にすれば作家という職業になるのだと知り、プロを目指すようになりました。そのためにもたくさん勉強し、色々な経験をしようと考え、中学では柔道、高校ではミュージカルをしましたね。

H 初めて小説を書いたのは。A 文字を学んだ小1の時ですが、初投稿は中3です。原稿用紙360枚くらいかな。その後、高校OGの編集者の方に松本清張賞への応募を勧められ、大学3年で受賞しました。それがデビュー作の『鳥に単は似合わない』です。（7月1日号へ続く）

阿部さんと萩原館長

